



# 輝け！北っ子！

## 令和4年度の学校経営・運営① ～次年度に向けてしっかり検討中～

3学期も残すところ40日。いよいよ来週からは2月に入ります。学校では、今年度のまとめに力を入れているところですが、同時に来年度の計画についても細部にわたり検討しています。

何回かに分けて次年度の学校経営について紹介したいと思います。まずは、今年度の「(途中)総括」についてです。この内容は先生方との会議に使用した文書の中からの抜粋・加除修正したものです。

### ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 【(途中) 総括】 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

R3年度は、間違いなく新型コロナウイルス感染症に翻弄され、その対応に追われた一年になっている。クラスター発生・デルタ株・オミクロン株の流行、学校休業、学級閉鎖、時数確保対策、行事の中止・変更・・・等、昨年度に引き続き、例年の学校生活とは比較ができない大変な状況であったことは間違いない。北っ子まつりや授業参観、持久走記録会、宿泊学習など、実施できた行事等であっても、方法は全く新しいやり方で対応することも多かった。さらには、GIGAスクール構想の下、タブレットの活用、オンライン学習システムの構築等が急ピッチで進められ慌ただしい時間を過ごすことも多かった。子どもたちにとっても、先生方にとっても、また保護者の皆様にとっても「激動の一年」「暗中模索の一年」という思いは同じではないだろうか。その中であっても、前を向き、日々子どもと向き合い、子どもたちに落ち着きを取り戻し、子どもたちの社会を生き抜く力の育成にしっかり力を注いできた。学校と保護者の協働体制が今年度乗り切れている要因になっているといっても過言ではない。



令和4年度も新型コロナウイルス感染症への対応継続は必要になると考えられる。感染状況に応じて、学校の対応を臨機応変に対応していくという事態は「想定範囲内」としても、子どもの命を守る観点から学校としてできる感染症への基本対応(マスク着用、手洗い、うがいの励行、換気の重視、3密回避、ソーシャルディスタンスの確保等)は常にしっかりと取り組まなければならない。さらに、学校はコロナとの共存、これからの時代にマッチした持続可能な教育を目指すしなければならないと考える。

一方で、コロナ禍であろうとなかろうと、目の前の子どもたちにとって必要と考える事については、なんとしてでも実行していかなければならない。学校全体として打ち出す方向性、力を入れて取り組む事項はより明確化、より重点化し、全職員で常に意識し、保護者の理解をいただきながら実践する必要がある。「変容」を求めるためには「行動」すること以外にはない。そして、行動化にあたっては全員が同じ方向を向き、納得いく結果が出るまで、改善を加えながらも「徹底」「継続」することを意識したい。



令和4年度は「青少年赤十字研究推進校」としての最終年度の年にあたる。この推進校への指定を子どもたちの主体性をさらに伸ばすよい機会として活用したい。青少年赤十字の態度目標「気づき、考え、実行する」実践目標「健康安全、奉仕、国際理解・親善」はすべての教育活動のバックボーンと考えることはできるが、青少年赤十字に直接的に関わるな取り組みや環境整備等も積極的に行うことで、子ども達の主体性や自主性を伸ばし、意識・行動を変容させたいと考えている。

今回の総括を受けて、次年度目指していこうと考える学校の姿については次号以降でお伝えします。保護者の皆さんの協力を得ながら、より具体的に、より戦略的に学校経営をしていきたいと考えています。保護者の皆さんの「次年度の学校に期待すること」などありましたらお聞かせください。

## 保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください(または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで)～

..... 切り取り線 .....